



[kaminorippo.org](http://kaminorippo.org)

## 付録7d: 質問と回答 — 処女、やもめ、離縁された女

このページは、神が受け入れる結びつきに関する連載の一部で、次の順序に従っています:

1. [付録7a: 処女、やもめ、離縁された女: 神が受け入れる結びつき。](#)
2. [付録7b: 離縁状 — 真実と神話。](#)
3. [付録7c: マルコ 10:11-12 と姦淫における偽りの平等。](#)
4. [付録7d: 質問と回答 — 処女、やもめ、離縁された女 \(現在のページ\)。](#)

### 神の定義による結婚とは何でしょうか？

初めから、聖書は、結婚が儀式や誓い、人間の制度によってではなく、女——それが処女であれ、やもめであれ——が男と性的関係を持つ瞬間によって定義されることを明らかにしています。この最初の性交こそ、神ご自身が二つの魂が一つの肉となる結びつきと見なされるものです。聖書は一貫して、女が男と結び合わされるのはこの性的なきずなを通してのみであり、彼の死に至るまで彼に結ばれたままであることを示しています。私たちは、この聖書から明白な土台の上に立って、処女、やもめ、そして離縁された女に関する一般的な問いを検討し、社会的圧力によって持ち込まれた歪みを明らかにします。

ここでは、結婚・姦淫・離婚について聖書が実際に教えていることに関する、最も一般的な質問のいくつかをまとめました。私たちの目的は、しばしば神の戒めに真っ向から反する形で時代とともに広まってきた誤った解釈を、聖書に基づいて正すことです。すべての回答は、旧約と新約の整合性を保つ聖書的視点に従っています。

質問: ラハブはどうなのですか？ 彼女は遊女でしたが、結婚し、イエスの系図の一部でもあります！

「彼らは町にあるものをことごとく剣で滅ぼし尽くした。男も女も、若い者も年老いた者も、牛・羊・ろばに至るまで」(ヨシユア記 6:21)。ラハブはやもめとしてイスラエルに加わりました。ヨシユアが、改宗しておらず、処女でもない異邦の女をユダヤ人にめとらせることは決してありません。神の律法によれば、彼女が別の男と結びつく自由を得るのは、やもめであるときだけです。

## 質問: イエスは私たちの罪を赦すために来られたのではありませんか？

はい。姦淫を含め、魂が悔い改めてイエスを求めるなら、事実上あらゆる罪は赦されます。しかし赦されたのち、その人は現在進行中の姦淫関係から離れなければなりません。これはすべての罪に当てはまります。盗む者は盗みをやめ、嘘をつく者は嘘をやめ、冒とくする者は冒とくをやめるのです。同様に、姦淫を犯した者が、その姦淫関係を続けながら、もはや姦淫の罪は存在しないと期待することはできません。

女の最初の夫が活着しているかぎり、彼女の魂はその夫に結び合わされています。夫が死ねば、その魂は来たところである神のもとに帰ります(伝道者の書 12:7)。そのときにのみ、女の魂は望むなら別の男の魂と結びつく自由を得ます(ローマ人への手紙 7:3)。神は前もって罪を赦されることはありません——赦されるのは、すでに犯された罪だけです。もし人が教会で神に赦しを求めて赦されても、その夜に神の見方で配偶者ではない相手と寝たなら、その人はふたたび姦淫を犯したのです。

## 質問: 「見よ、すべてが新しくなった」と、回心した者について聖書は言っていますか？ ゼロからやりなおせるという意味では？

いいえ。回心者の新しい生に関する箇所は、罪の赦しを受けたのちに神がその人にどのように生きることを求めておられるかを語っており、過去の過ちの結果が消滅するという意味ではありません。

確かに使徒パウロは、コリント人への第二の手紙 5:17 で、二節前(15 節)を受けてこう書きました。「だれでもキリストのうちにあるなら、その人は新しく造られた者です。古いものは過ぎ去って、見よ、すべてが新しくなりました。」——「そしてキリストはすべての人のために死なれました。それは、活着している人々がもはや自分のためにではなく、彼らのために死んでよみがえられた方のために生きるためです。」これは、世の多くの指導者が教えるように、神が女に恋愛生活をゼロから始める許可を与えるということとは、まったく関係がありません。

## 質問: 「神は無知の時代を見過ごしてこられた」と聖書は言っていますか？

「無知の時代」(使徒 17:30)という語は、パウロがギリシャを通過中、イスラエルの神や聖書、イエスのことを一度も聞いたことのない偶像礼拝の民に向けて語った際に用いたものです。この文を読んでいる人で、回心以前にこれらを知らなかったという人はいないでしょう。

さらにこの箇所は、悔い改めと罪の赦しに関わる文脈です。御言葉は、姦淫の罪に赦しが無いなどとはほめかきさえていません。問題は、多くの人が、すでに犯した姦淫の赦しだけでなく、その姦淫関係を継続することまで望むことです——神は、男であれ女であれ、これをお認めになりません。

## 質問: 男については何も言われませんか? 男は姦淫を犯さないのですか?

男も姦淫を犯しますし、聖書時代の刑罰は双方に同じでした。ただし神は、姦淫の成立について男女で異なる取り扱いをされます。男の処女性と男女の結びつきの可否には関連がありません。関係が姦淫であるかどうかを決定するのは男ではなく女です。

聖書によれば、男は既婚未婚を問わず、相手の女が処女でもやもめでもないとき、関係を持つたびに姦淫を犯します。たとえば、25歳の処女(童貞)の男が、処女でない23歳の女と寝るなら、男は姦淫を犯します。神の見方では、その女は別の男の妻だからです(マタイの福音書 5:32; ローマ人への手紙 7:3; レビ記 20:10; 申命記 22:22-24)。

### 戦時における処女・やもめ・非処女

参照	指示
民数記 31:17-18	すべての男と非処女の女を滅ぼせ。処女は生かしておく。
士師記 21:11	すべての男と非処女の女を滅ぼせ。処女は生かしておく。
申命記 20:13-14	成人男子をすべて滅ぼせ。残された女性はやもめと処女である。

## 質問: 離婚・別居した女は、元夫が生きているあいだは結婚できないのに、男は元妻の死を待たなくてよいのですか?

待つ必要はありません。神の律法によれば、男が聖書的理由(マタイの福音書 5:32 参照)で妻と別れる場合、処女かやもめをめとることができます。しかし現実には、今日ではほとんどすべてのケースで、男は妻と別れ、離婚・別居した女をめとります。この場合、その「新しい妻」は神の見方では別の男に属するため、男は姦淫の中にいることとなります。

## 質問: 男が処女ややもめを妻にしても姦淫にならないのなら、神は今日も一夫多妻をお認めになるのですか?

いいえ。私たちの時代に多妻は許されません。それはイエスの福音と、父の律法のより厳格な適用によるからです。創造以来与えられた律法の文字(*τὸ γράμμα τοῦ νόμου* – *to gramma tou nomou*)は、女の魂はた

だ一人の男に結びつくと定めていますが、男の魂がただ一人の女に結びつくとは定めていません。ゆえに、聖書において姦淫は常に女の夫に対する罪として描かれます。族長たちや王たちについて、彼らの妻が処女またはやもめであったときに彼らが姦淫者だと神が言われたことは一度もありません。

しかしメシアの到来とともに、私たちは律法の霊(*τὸ πνεῦμα τοῦ νόμου – to pneûma tou nóμου*)の完全な理解を受けました。天から来られた唯一の語り手であるイエス(ヨハネの福音書 3:13;ヨハネの福音書 12:48-50;マタイの福音書 17:5)は、神のすべての戒めが愛と被造物の益に基づいていると教えられました。律法の文字は表現であり、律法の霊はその本質です。

姦淫の事例において、律法の文字が、相手が処女またはやもめであるかぎり男が複数の女と共にいることを禁じていないとしても、律法の霊はその実践を許しません。なぜなら、今日それは関わるすべての人に苦しみと混乱をもたらすからです——そして自分を愛するように隣人を愛することは、二番目に大いなる戒めだからです(レビ記 19:18;マタイの福音書 22:39)。聖書時代には文化的に受け入れられ、期待されてもいましたが、今日においてはあらゆる点で受け入れられません。

## 質問: 別居中の夫婦が和解し、結婚を回復することは可能ですか？

はい、次の条件を満たすなら可能です。

1. 夫が実際に妻の最初の男であったこと。そうでない場合、その結婚は別居以前から有効ではありません。
2. 別居期間中に、女がほかの男と寝ていないこと(申命記 24:1-4;エレミヤ書 3:1)。

以上の回答は、結婚と姦淫に関する聖書の教えが、聖書の初めから終わりまで一貫していることを再確認するものです。神が定められたことに忠実に従うことで、教理の歪曲を避け、神によって制定された結びつきの神聖を守ることができます。